

平成 28 年 度

平成 28 年 1 月 24 日 実施

入 学 試 験 問 題

(看護学科 3 年課程)

国 語 総 合

◎指示があるまで開いてはいけません

注 意

1 解答用紙には、受験番号・志望校名が印刷されているので、あなたの解答用紙かどうかを確認すること。

なお、氏名欄、志望校名欄には、氏名、志望校名を漢字で正確に記入すること。

2 この問題は、表紙を除いて 1 ページから 13 ページまでであるので確かめること。

3 試験の時間は、9 時 00 分から 9 時 45 分までの 45 分とする。

4 解答には、B 又は HB の鉛筆を使うこと。(シャープペンシルは不可)

5 問題は、5 肢択一式により出題されている。解答方法は、次のとおりとする。

(1) 5 肢択一式問題の正解は、各問題とも 1 つであるから、解答用紙の所定のマーク欄に、正解の番号を 1 つだけマークすること。2 つ以上マークされている場合は無得点とする。

(2) 解答用紙の〔記入上の注意〕をよく読んでマークすること。

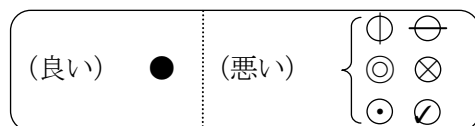
例 〔問 1〕日本の首都は次のうちどれか。

① 京都 ② 福岡 ③ 東京 ④ 大阪 ⑤ 神戸

正解は「③ 東京」であるから解答用紙のその問題番号の次にならんでいる

マーク欄 ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を鉛筆で ● のように

マークして ① ② ● ④ ⑤ とすればよい。



(良い) のようにマークする。

(悪い) のようだと機械で読み取れないことがある。

解答変更のため、すでにつけた印を消す場合は、プラスチック消しゴムでよく消すこと。

国語総合

□ 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

芭蕉はその弟子たちに、彼の詩風を支えている二つの原理は流行と不易ふえきであると語っている。これは、日本の詩を常に脅やかしていた二つの危険が何であるかを考えるならば一層よく解わかることで、その一つは、そしてこの方が大きかったのであるが、既にある傑作を研究し、模倣し過ぎることから生じる陳腐ちんぷと不毛だった。芭蕉は彼の詩風が年とともに変わり、月ごとに新しくならなければならないと主張した。また彼は、古人の後から付いて行くことを望まず、彼らが求めたことを自分も求めているのだとも言っている。ということとは、昔の詩人たちが人間に永遠に課されている各種の問題に与えた解答を受け入れず、それを自分で解決しようとしたということ、彼が挙げている第二の原理である不易ふえきということはこのことを指している。十七世紀の日本の文学に起った新しい運動の影響で、伝統的なものが一切斥しりぞけられ、日本の詩人たちが自由に酔った時、その結果は混乱に終る場合が多かった。しかし芭蕉にとっては、流行と不易の両方が彼の俳句になくしてはならなくて、彼の最も優れた作品ではこの二つが、ここで述べた意味だけでなしに、幾何学的に言えば、**A** 的なものと **B** 的なものの交わる点となって表現されているのが見られる。その一例が、芭蕉の俳句の中では或は最も有名なかも知れない、

古池や蛙飛びこむ水の音

である。

その第一節で、芭蕉はこの詩でその不易の要素をなしている時間を超越して動かない池の水を出している。次の一節の蛙が **A** 的なもので、この二つが水の音という一点で交わっている。もっと方式通りに解釈すれば、この詩で不易の部分は無数の日本の詩でその主題をなしている真理の認識であり、芭蕉の寄与は、それまでに何度も詩で用いられて来た蛙の鳴き声でなしに、その跳躍を詩に使ったことにあった。

もしこの真理の認識ということが事実、この詩の主題であるならば、我々にはここに禅宗の哲学の影響を見ることが許されて、禅の教えには、経典を熟読したり、戒律を厳守したりすることよりも、むしろ突然の直覚を通して悟りが開けるといふようなことも含まれている。禅宗に入ったものは或る一定の姿勢で眼を半ば閉じたまま、一切の基本である虚無について考えながら長時間、坐すわらせられる。そしてそこにそうして坐すわって体を微かすかに揺らせ、香の匂いに包まれ、一人の僧侶の読経が単調に続くのを聞くともなく聞いている時、不意に後から軽い木の棒で叩たたかれることがあって、もし悟りが開けるものならば、それはその時なのである。しかし何かそうした不意のことならばどんなことでも、同じ結果に立

に至ることが出来るので、禅宗では、釈迦しやくかは暁あかつきの明星が現れたのを見ることで悟達したと信じられている。

そういう真実の瞬間に表現を与えるのに、芭蕉は例えばこの古池やの句、或はそれと同じくらい有名な、

かれ朶えだに鳥からすのとまりけり秋の暮

の句でやっているように、視覚的な映像を最も多く用いている。またこの鳥の句では、その影像があまりにも尖锐せんえいなのでよく絵に描かれることがあるが、芭蕉はそういう視覚的な影像にだけ頼ったのではなくて、

C

に見られる通り、他の感覚が働いている場合もあり、また、

海かみくれて鷗かものこゑほのかに白し

では、各感覚が驚くほど、近代的な形で混同されている。

以上の句でも解るように、俳句は非常に短い詩形式であるにも拘かかわらず、必ず二つの要素を含んでいなければならなくて、それが切字きれじと呼ばれる言葉で普通は分けてある。この二つの要素で、その一つがその時の一般的な状態、例えば、秋の暮れであるとか、寺の境内の静寂とか、暗くなつてゆく海とかで、もう一つがその瞬間の認識である場合もあり、要素そのものの性質にはいろいろあつても、俳句が有効であるためにはそういう電極に似たものが二つあつて、その間で火花が散ることが要求されている。これがなければ、俳句は単に短い文章に過ぎなくて、エーミ・ローエルなどの欧米で俳句の形式を真似まねた詩人たちはこの点を見逃し、俳句が短いということと、それが暗示に富む形式であることには気が付いていても、そういう効果3がどうして得られるかは理解していないようである。

(出典 『ドナルド・キーン著作集 第一巻 日本の文学』より)

〔問1〕

流行(1)と不易ふえき、とあるが、「流行」もしくは「不易」についての説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 「流行」とは、既にある傑作を研究し、模倣し過ぎること。
- ② 「不易」とは、詩風が年とともに変わり、月ごとに新しくなること。
- ③ 「流行」とは、古人の後から付いて行くこと。
- ④ 「不易」とは、古人が求めたことを自分も求めること。
- ⑤ 「流行」とは、伝統的なものを一切斥けること。

〔問2〕

陳腐(2)の意味の説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① ありふれているさま。
- ② 変わっているさま。
- ③ さりげないさま。
- ④ 頼りないさま。
- ⑤ 無駄が多いさま。

〔問3〕

空欄 A、B に当てはまる言葉として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- | | | | | |
|---|---|----|---|-----------------------|
| ① | A | 相對 | B | 絶対 |
| ② | A | 具体 | B | 抽象 |
| ③ | A | 個別 | B | 一般 |
| ④ | A | 帰納 | B | 演繹 <small>えんぎ</small> |
| ⑤ | A | 瞬間 | B | 恒久 |

〔問4〕

空欄 C に入る句として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 五月雨の降りのこしてや光堂
- ② 閑しずかさや岩にしみ入蟬いるせみの声
- ③ 五月雨をあつめて早し最上川もがみがは
- ④ 荒海や佐渡の横たふ天河あまのがは
- ⑤ 石山の石より白し秋の風

〔二〕 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

アインシュタインが相対性理論を導き出したのには、¹十分な動機があった。それは、光の性質に関係している。彼は子供の頃から、光の速さで光を追いかけて走ったら、光が止まって見えるのかどうか、と考えていたという。

光は電磁波という波の一種だ。実は電波も電磁波の一種である。光も電波もその正体は同じなのだが、光の方が電波よりもずっと速く振動する波だという点が違っている。

波と言えば、普通は何か物質があつて、そこを伝わっていくものだ。水面上の波は、水がある場所で伝わる。また、私たちが音を聞くことができるのは、空気中の振動が伝わることによる。ひもをピンと伸ばしてから振動させると、その振動が波となってひもを伝わる。

そう考えると、光も何か物質を伝わる波だと推論したくなる。ところが、光だけは物質がない真空の空間を伝わる事ができるという例外的な波なのだ。わかりやすい例に、太陽の光がある。太陽の光は、地球に届くまでにほとんど真空の宇宙空間を伝わってくる。一方、音は真空中を伝わらないので、太陽の表面で爆発があつても、地球上でその音が聞こえることはない。私たちの身のまわりにある波の中で、光や電波などの電磁波だけは、波を伝えるための物質がなくても伝わる事ができる。

物質の中を波が伝わる時、波はその物質に対して一定の速さで伝わる。音は空気中を伝わるので、風があれば、音の速さは風の方向へ速くなり、逆の方向へは遅くなる。風と同じ速さで動く人には、風がないのと同じになり、どちらの方向へも音は同じ速さで伝わっていく。

〔A〕物質がないところを伝わる波は、波を伝える物質というものがなかったので、物質に対して速さが一定になるといふ性質はない。では、電磁波の速さは何によって決まっているのだろうか。

光も電波も、真空中では秒速約30万キロメートルで進む。光が物質を伝わるのではないのなら、この速さは何に対する速さなのだろうか。この疑問は、当然ながら物理学者を悩ませていた。

私たちが知らないだけで、真空中にも光や電波を伝える何らかの物質のようなものがあるのではないかと当初は考えられた。光を伝えるバイカイバイカイとなるその物質のようなものは、正体不明ながらも「エーテル」と名付けられた。

地球は自転しているし、さらに太陽のまわりを公転しているので、宇宙空間から見ると地上の物体は常に方向を変えながら運動している。エーテルが宇宙空間に静止しているなら、それに対して運動している地球上では、常にエーテルの風が吹いていることになる。すると、エーテルが吹き付けてくる風上方向へは光の速さが〔B〕、風下方向へは

〔C〕はずだ。

ところが、どんなに精密に測定してみても、光の速さは地球の運動とは関係なく、常に

一定だという測定結果しか得られなかった。これは、エーテルの存在という考え方自体がうまく行かないことを意味する。

それどころか、観測者が動いていても止まっても、測定される光の速さは一定なだった。この性質はキミョウである。普通に考えれば、光の進行方向へ追いつけながら測定すれば、追いつける速さの分だけ光は **D** 進むように見えるはずだ。また、光の進行方向と逆の方向へ動きながら測定すれば、その分だけ光は **E** 進むように見えるはずである。

ところが、実際にはどちらの場合も同じ速さになってしまう。真空中を伝わる波は、どうやって測ろうとも、速さを測定するといつも一定の値しか得られない。光というのは他の波と違って、かなりジヨウシキ外れな奴なのだ。

そこへ颯爽と登場したのが若きアインシュタインであった。彼によれば、光の性質を説明するのにエーテルなどを持ち出す必要はない。彼は、真空中の光の速さは一定であるべきだ、と最初から考えていた。

エーテルがないなら、光は何もない真空の空間を伝わることになる。物質のない真空空間というものは、運動している人にとっても、止まっている人にとっても、どちらにも同じ空間に見える。動いているか止まっているかというのは、何かある物体を基準にして初めて意味がある。真空にはそのように基準にすべきものが何もない。唯一の基準は、**F**。ある物体が運動しているかどうかということは、何か他に比べる物体があつて初めて意味がある。他に何も物体のない空間では、一つの物体が運動しているかどうかを決める手段がない。

昔の人は、地面が止まっていると考えていた。この場合、地上に住む人が動いているか止まっているかというのは地面が基準になる。地面に固定された椅子に座っている人は、止まっていると言える。動く電車の椅子に座っている人は、動いている。だが、地球は自転しているので、実際には地面は動いている。すると地上で止まっているように見えても、宇宙から見ると動いている。

地球自体も太陽のまわりを公転しているし、太陽も宇宙空間で静止しているわけではない。銀河系という巨大な星の集団の中心を一周するのに2億年以上もかけて回転運動しているのだ。さらに銀河系自体も、さらに大きな宇宙の観点から見ると、他の銀河系に対して運動している。

このように、運動というものは、何か他の物体との位置関係からしか決めることができない。すなわち、運動というのは相対的な性質のものなのだ。一方、宇宙空間に静止するエーテルのようなものを考えることは、**G** な基準を空間に付与することを意味する。そうした **G** な基準がないということから、アインシュタインの考えた理論は「相対性理論」と呼ばれる。

(出典 松原隆彦『まっばらたかひこ』「宇宙はどうして始まったのか」より)

〔問8〕 十分な動機⁽¹⁾、とあるが、それについての説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 子供の頃から、光の速さで光を追いかけて走ったら、光が止まって見えるのかどうかと考えていたから。
- ② 光も電波も電磁波という波の一種だが、光の方が電波よりもずっと速く振動する波と考えていたから。
- ③ 光は、電磁波という波の一種であり、他の物質と同様に何か物質を伝わる波だと推論したくなるから。
- ④ 太陽の光は、地球に届くまでにほとんど真空の空間を伝わってくると考えていたから。
- ⑤ 光は、波を伝えるための物質がなくとも伝わることをできると考えていたから。

〔問9〕

空欄 A に当てはまる言葉として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① たとえば
- ② とくに
- ③ しかし
- ④ というのは
- ⑤ こうして

〔問10〕

バイカイ、キミヨウ、ジヨウシキの傍線部に該当する漢字を含む熟語の組み合わせとして正しいものは、次のうちのどれか。

- | | | | | |
|---|---|--------------|---|-----------|
| ① | a | 宣伝 バイタイ。 | b | 昔のニツキ 。 |
| | c | ジヨウオンでの保存。 | | |
| ② | a | 所得のバイゾウ。 | b | 活躍をキタイする。 |
| | c | カジヨウ生産。 | | |
| ③ | a | 植物のサイバイ。 | b | コウキシンを持つ。 |
| | c | ジヨウヤクを結ぶ。 | | |
| ④ | a | バイシンイン制度。 | b | キカイをうかがう。 |
| | c | ジヨウキを逸する。 | | |
| ⑤ | a | 結婚式のバイシヤクニン。 | b | キセキが起きる。 |
| | c | 諸行ムジヨウ。 | | |

〔問 11〕 空欄 B、C、D、E に当てはまる言葉として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- | | | | | | | | | |
|---|---|---------|---|---------|---|----|---|------|
| ① | B | 少し遅くなり | C | 常に一定となる | D | 遅く | E | 速く |
| ② | B | 常に一定となり | C | 少し速くなる | D | 速く | E | 遅く |
| ③ | B | 少し速くなり | C | 少し遅くなる | D | 速く | E | より速く |
| ④ | B | 少し遅くなり | C | 少し速くなる | D | 遅く | E | 速く |
| ⑤ | B | 少し速くなり | C | 少し遅くなる | D | 速く | E | 遅く |

〔問 12〕 空欄 F に当てはまる文章として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 「エーテル」に代わる宇宙空間物質だけである
- ② 光の速さを測っている観測者だけである
- ③ やはりエーテルだけである
- ④ 考えようがない
- ⑤ 宇宙空間全体である

〔問 13〕 空欄 G に当てはまる文章として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 仮定的
- ② 個別的
- ③ 絶対的
- ④ 具体的
- ⑤ 虚偽的

〔問 14〕

この文章の内容に合致するものは、次のうちのどれか。

- ① 太陽の表面で爆発があっても、地球上でその音が聞こえることはないことから「エーテル」の存在は否定された。
- ② 「エーテル」の存在は否定されたが、仮にそれを肯定したとしても、アインシュタインの「相対性理論」とは矛盾しない。
- ③ 光の速さを精密に測定するためには、観測者が止まった状態では、正確な値は得られない。
- ④ アインシュタインの理論が「相対性理論」と呼ばれるのは、運動というものが、何か他の物体との位置関係からしか決めることができなからである。
- ⑤ 地球も、太陽も、銀河系も動いていることから、光の速さを測定するための理論として「相対性理論」が生まれた。

〔三〕 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。(問題文は、原文の一部を省略した。)

経済学の教育と研究を職業として以来、筆者は、自分の仕事^{しごと}が人の役に立っているのだろうかとふと考えたことが幾度かあった。何か直接目に見える形で、自分の努力が人の悦びとして報われることを浅^しはかにも望んでいたのであるうか。確かに、当時うらやましく思った職業がいくつもあった。音楽家、大工、料理人などの仕事は、具体的な仕事を通して人の悦びを X 感じ取ることができる。言葉を紹介することなく、具体的な行為によって人間の存在の根本にかかわれるからだ。しかし労働経済学の研究で様々な職場の調査をするうちに、いつしか、どの仕事にも苦しさ^{くるしみ}と楽しさ^{たのしみ}があり、あの仕事は、この仕事は、と比較するのは愚かなことだとわかってきた。

しかし自分の仕事と社会との関係を考えるうちに、なるほどと思う発見もあった。筆者が憧れた職業は、単に人を直截^{ちよくせつ}に喜ばせるだけではなく、仕事を遂行していくのには段階を踏まねばならないという事実を知る格好の例でもあったということだ。大工の仕事をみていると、物事には順序があり、作業には目に見えるものと見えないものがあること、しかし仕事が終わった段階では、こうした順序や隠されたものは、完成した全体像からは読み取りにくいということがわかった。ある機能や精神をひとつの「形」に表現する、そして見えないところで見えるものを支えるという構造を案出するという点で、共通の奥深さがあることに気づいたのだ。

実は、経済学にも学ぶ順序や使い方があある。学ぶ内容にも、前準備と土台のための「見えない知識」と「命題の形で論証された知識」がある。これらの知的遺産を理解して、現実の経済問題を考えるという「順序」が大切なことは強調してもしすぎることはない。経済現象は複雑なだけでなく、循環的な構造を持っている。原因が結果を生むだけでなく、その結果がまたもとの原因に働きかけるといふ関係がある。ひとつの現象が多く^{おほく}の要因に依存しており、様々な要素が網の目のように相互に関係しあっている。このような複雑な経済現象を解きほぐしていくためには、正確な「事実」の把握と、論理的に(つまり筋道を立てて)考える力が必要とされる。このステップで必要とされるのが、家を建てる^{たて}ときの大工のような、「順序だった仕事ぶり」なのである。

しかし論理的な筋道を立てる、という作業だけでは、単なる「骨」か「柱」だけの建造物に終わる。それだけでは生きて人間が「人間として気持ちよく住める建物」にはならない。さらに必要なのは論理以外の美しさ、気持ちよさなどの精神的な無形の要素である。ここで言う「人間として気持ちよく住める建物」は善き生活のための善き経済政策に対応する物であり、「骨」や「柱」が経済理論に相当すると考えてもいいだろう。

それはちやうど、言語の例に引き寄せて言うと、「文法」に当たるのが経済学であり、読む、話す、書くといった実際の言語の「使用」「運用」にかかわるのが経済政策だと見てよいだろう。外国語として言語を学ぶ際、文法の理解は不可欠なことは言うまでもない。しかし、文法の習得だけでは、読む、話す、書く、と言った言語活動は実用的で、かつ洗練

されたものにはならない。経済理論の役割が、「骨」や「柱」、あるいは「文法」の働きや役割と似ている理由をどう説明すればいいのだろうか。

おそらく経済学のいかなる分野をとっても、理論が純化した命題とその応用としての現実の経済政策との間に一意的な対応関係が存在する場合は稀まれであろう。理論的命題は必ず、「Aという条件が成立すれば、Bという結果が得られる」という形式をとる。しかしこのAという条件が成立しているか否かを、経験的なデータで厳密にテストすることはできない。さらに、Aという条件以外の要素を理論は捨象しているわけであるから、理論が教える「定理」自体を現実の政策論議にそのまま援用することは難しい。先ほどのたとえで言う、「柱だけの家には住めない」ということであり、「文法だけを（例外の例外まで）学習しても、外国語をマスターしたことにほならない」というのに似ている。

「経済学は何ができるのか」と問うことが本書の目的であった。経済学は社会の経済問題に **Y** に明快な答えが与えられるものではない。むしろそうした明快な、強すぎる主張には用心すべきであろう。個々人の私的问题是もちろん、社会問題には、必ず経済的な側面がある。しかし、純粋な経済問題はこの世に存在しない。純粋な経済問題と見える場合でも、その根源や成り立ち、そして全体的な姿に迫ろうとすれば、そこに経済外的な要因が必ず見つかる。

この世の多くの問題が、「純粋に経済的」ではないとすれば、経済的な側面に限定してその問題にメスを入れる経済学だけではその問題は解決しないはずだ。だからこそ、経済学者による（完全な知識ではないが）専門的判断だけではなく、健全な価値観と判断能力を持ったアマチュアの生活者としての知恵も必要とされる。賢明なアマチュアが提示した回答や疑問に対して、経済学からの回答を経済学者は準備しなければならない。しかし経済学の役割はここまでである。何を重視したモデルに基づくかによって経済学者の回答は同一でない場合が多い。したがって当然そこに「価値」の対立と相克が生まれることは避けられない。あとはデモクラティックな過程の中で、議論を重ねながらなんらかの合意に達する道を探るといのが、リベラル・デモクラシーの文明社会に住む人間の義務と責任なのである。

（出典 いのき たけのり 猪木武徳『経済学に何ができるか』より）

〔問 15〕 浅はか⁽¹⁾、とあるが、この同義語として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 一般的
- ② 情緒的
- ③ 反動的
- ④ 短絡的
- ⑤ 瞬間的

〔問 16〕 空欄 X に当てはまる言葉として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 素朴に
- ② 強烈に
- ③ 直に
- ④ 比喩的に
- ⑤ そこはかとなく

〔問 17〕 共通の奥深さ⁽²⁾、とあるが、筆者が経済学において奥深いと述べているものとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 経済学の美しさを見えないところで支えている学ぶ順序。
- ② 命題の形で論証された知識を支えている見えない知識。
- ③ 経済現象における結果を見えないところで支えている原因。
- ④ 正確な事実の把握を見えないところで支えている論理的に考える力。
- ⑤ 善き生活のための善き経済政策を見えないところで支えている経済理論。

〔問 18〕 空欄 Y に当てはまる言葉として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 一刀両断
- ② 二律背反
- ③ 三位一体
- ④ 四苦八苦
- ⑤ 五里霧中

〔問 19〕

アマチュアの生活者としての知恵も必要とされるとあるが、その理由として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① この世の多くの問題が純粹に経済的でないから。
- ② 経済学者は専門的判断をするものの、論理的な筋道を立てることにならないから。
- ③ 社会問題には必ず経済的な側面があるから。
- ④ 経済学者の回答は何を重視したモデルに基づくかによって異なるから。
- ⑤ リベラル・デモクラシーの文明社会に住む人間にとり、経済問題を考えることは義務かつ責任であるから。

〔問 20〕

この文章の内容に合致するものは、次のうちのどれか。

- ① 筆者は、経済学の教育と研究という職業が、直接目に見える形で人の悦びとして報われることに懐疑的である。
- ② 経済現象は複雑であり、様々な要素が相互に関係しあっているから、正確な事実を把握することは諦めるべきである。
- ③ 現実の経済問題を考えるにあたっては、論理的な筋道を立てて考える必要があり、そこで出された答えにより問題の解決を図ることができる。
- ④ 経済問題は、経済外的な要因が必ず見つかるので、純粹な経済問題と分離して考える必要がある。
- ⑤ 社会の経済問題を考えるにあたっては、経済学者のみならず、それ以外の社会の構成員の参加が必要である。

余
白

余
白

余
白

